

高等学校

平成 13 年 度

教育研究員研究報告書

家 庭

東京都教職員研修センター

平成13年度

教 育 研 究 員 名 簿

学 校 名	氏 名
都立忍网高等学校	樋 口 佐知子
都立足立工業高等学校	渡 邊 由紀子
都立片倉高等学校	鈴 木 民 子
都立昭和高等学校	佐 藤 塩 見
都立小平南高等学校	富 川 麗 子

担当 東京都教職員研修センター指導主事 倉持 眞由美

目 次

I	研究主題設定の理由	2
II	研究の内容	
1	「生活課題を主体的に解決できる生徒」とは	2
2	家庭科の学習で「生活課題を主体的に解決できる生徒」を育成する意義	3
3	「生活課題を主体的に解決できる生徒」を育成する指導の工夫	3
4	評価の基礎	4
III	研究の構想	5
IV	全体指導計画	6
V	指導事例	
指導事例 1	私の、僕の人生と家族	7
指導事例 2	食生活と健康のかかわりを知ろう	11
指導事例 3	まだ先のこともかもしれないけれど	15
指導事例 4	安らぎの住まい	18
指導事例 5	さあ困った、どうしよう	22
VI	研究のまとめと今後の課題	24

<p>指導事例 1</p> <p>「私の、僕の人生と家族」</p> <p>クイズ形式で生徒の興味・関心を喚起しながら、現代の家族・家庭について学び、さらにブレインストーミングによる発表を取り入れた事例</p>	<p>指導事例 2</p> <p>「食生活と健康のかかわりを知ろう」</p> <p>アンケート調査の実施や自分の体についての調べ学習を通して、自分の食生活にかかわる問題に気づき、問題点を調査・実験・実習により解決した事例</p>	
<p>指導事例 3</p> <p>「まだ先のこともかもしれないけれど」</p> <p>全生徒が体験できる簡単な高齢者疑似体験を通して、高齢者の生活を身近な問題としてとらえる事例</p>	<p>指導事例 4</p> <p>「安らぎの住まい」</p> <p>平面図の描き方や住環境の整備の基礎をもとに、生活要求に適した住まいの設計をするという課題をグループごとに解決した事例</p>	<p>指導事例 5</p> <p>「さあ困った、どうしよう」</p> <p>将来に起こりうる問題を生徒自身が設定し、その解決方法を探る問題解決的な学習を取り入れた事例</p>

I 主題設定の理由

21世紀がスタートした。豊かな人間性をはぐくむ教育や、生徒一人一人の個性や能力を伸ばす教育を推進し、生涯にわたって学び続けることができる生徒の育成が求められている。新教育課程では、生徒に自ら学び、自ら考える力など「生きる力」を育成することを基本的なねらいとしている。家庭や地域社会の教育力が低下していると言われる今、学校教育において、生徒に自分自身で考え創造する力、自分で率先して行動する力、他者への思いやりなどの力を育む教育や、男女共同参画社会の推進や少子高齢化等への適切な対応も重視されている。

調理に携わる経験は、学校の授業の調理実習のみであるという生徒も多く、生活技術の低下が見られるなど、一人一人の生徒の生活経験や学習歴などが違っている。さらに、基礎的な生活習慣を身に付けていない生徒、児童虐待などにより心に深い傷を負った生徒なども増えてきている。そこで改めて家庭科教育において、どのような生徒を育てたいかを考えた。具体的には、①生活の自立性を高める ②一人一人の個性や能力を伸ばす ③生活の問題に気づき、問題を解決する ④他者とのかかわりを大切にする等、目指すべき生徒像を考えた。

そのためには、生徒一人一人の関心・意欲を喚起し、生活を見つめ、生活の主体者となって考えることのできる指導方法及び学習内容を検討していくことが必要となる。また、生涯にわたって学び続ける力を身に付けることが大切で、「学び方を学ぶ」ことを学習活動の中で積極的に取り上げていく必要がある。さらには、他者を思いやることのできる生徒を育成していくことを念頭に置き、一人一人の学習意欲を高めることのみならず、グループ学習など集団で学ぶ喜びと充実感を体得できる、学習集団のモラルを高めていく。

家庭科においてはホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動など、教育課題に迫る実践が見られるが、生徒の多様化、学習集団の規模や生活技術・経験の不足等の問題のため生活課題を主体的に解決する学習の実施には更なる工夫が必要である。今後、急激な環境の変化、生活の変化が予想される。予想できない変化に遭遇しても、自ら解決し力強く生き抜く生徒の育成を目指していくことが急務である。そこで、本研究では生徒一人一人が生涯にわたって、主体的・意欲的に生活課題を解決できる能力を培う授業を創造することをねらいとした。

II 研究の内容

1 生活課題を主体的に解決できる生徒とは

「家庭科」は変化の激しい社会的事象をも家族・家庭の視点で学ぶ教科である。家庭経営の例をあげれば、介護保険制度の導入、年金制度の変化、民法改正案など、半年前の知識でさえも古くなってしまい、役に立たなくなってしまうことがある。このような社会に対応していくためには生徒の学習への興味・関心、自ら学ぶ意欲を喚起し、生活に必要な知識と技

術を習得させ、学習した知識と技術を生かして、生活を見直し、課題を見いだしてその解決を図るなど、主体的な学習の仕方を身に付けさせることが不可欠である。

そこで、本研究では「生活課題を主体的に解決できる生徒」を①生活課題に気づき、問題意識をもつ生徒 ②興味・関心を生かして主体的に学習できる生徒 ③家庭科に関する基礎的な知識と技術を習得し、活用できる生徒 ④人とのかかわりを重視し、協力し合える生徒の4点ととらえた。

2 家庭科の学習で「生活課題を主体的に解決できる生徒」を育成する意義

『新学習指導要領』に示された「家庭科」の目標は「人間の健全な発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てる」である。

家庭科では、生活をよりよくするために主体的に実践できる能力と態度を育成することを目指し、小学校では家族の一員としての視点、中学校では自己の生活の自立を図る視点が重視され、さらに高等学校では社会とのかかわりの中で営まれる家庭生活への関心を高め、生活を創造する主体としての視点が重視されている。すなわち、自分が生活を営むという立場で生活の現状を見つめ、なぜそうするのか、どうしたらよいかという課題意識をもつとともに、実践的・体験的な学習を通して、家庭生活の様々な事象の根底にある原理・原則を科学的に理解し、それらにかかわる知識と技術を実際の生活上の意思決定や問題解決に生かしていくことである。

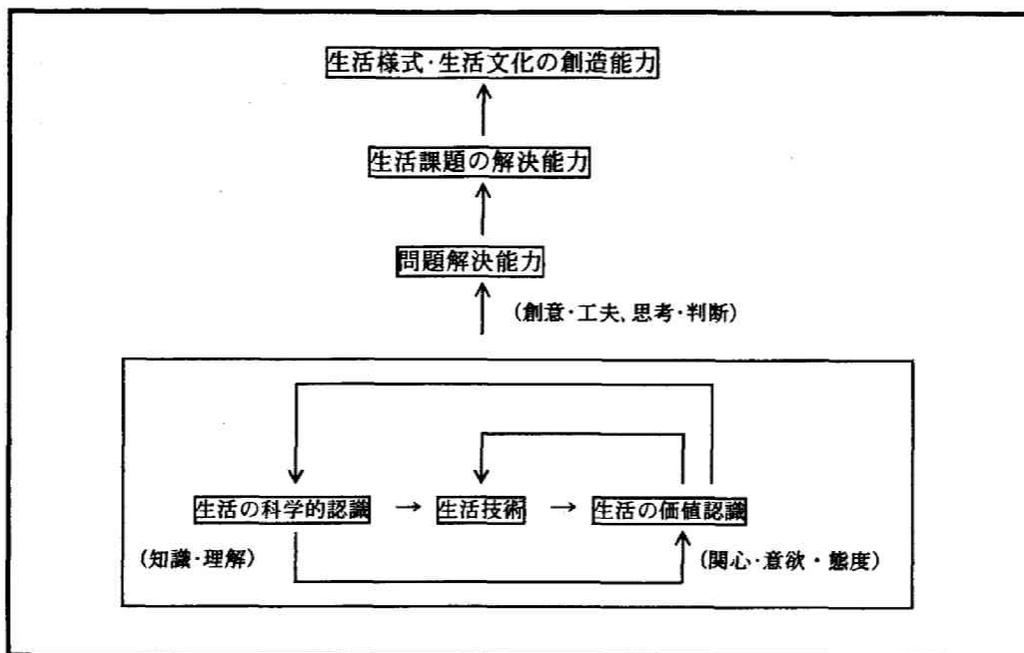
しかし、これまでの高等学校家庭科の学習指導は、ともすると基礎的な知識や技術の習得に力点がおかれ、知識伝達に傾倒しがちであった。一方で、実践的な態度の育成については家庭学習に委ね、学校における学習の中で行われることが少なかった。こうした状況を踏まえた時、自らの意欲で学習活動に取り組むことができる題材の開発や指導の工夫を通して、「生活課題を主体的に解決できる生徒」を育成することは、今日の高等学校家庭科の学習指導に求められている重要な課題であると考え、生徒が学習の中心となるような授業を創造する。

3 生活課題を主体的に解決できる生徒を育成する指導の工夫

先行研究（技術・家庭科の学力構造(『中等教育資料』平成8年8月号)）によると、生活課題解決能力の基礎能力としては問題解決能力があげられる。さらにその基礎部分として生活の科学的認識（知識・理解）、生活技術の習得（技術・表現）、生活重視の価値形成（関心・意欲・態度）などがある。

そこで、問題解決的な学習を取り入れ、問題解決能力を育成すること及び、その基礎となる生徒の生活への関心・意欲を喚起すること、生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な事項について理解し、知識を身に付けること、生活を充実向上するために必要な生活技術を身に付けることができる指導方法を工夫することにより、生活課題解決能力をはぐくむことができると考える。具体的には、実践的・体験的な学習を指導に取り入れるなどの工

夫をしていく。



〈技術・家庭科の学力構造(『中等教育資料』平成8年8月号)〉

4 評価の基礎

生活課題を解決する力を育成する授業における評価は、単に知識・理解や技術などの成果のみに重点を置くのではなく、教師の観察記録、生徒の自己評価・相互評価、レポート・感想文などの提出物により生徒一人一人の学習状況を把握することが重要である。そこで指導計画に合わせて評価計画を作成した。評価の観点は①関心・意欲・態度 ②思考・判断 ③技能・表現 ④知識・理解 の4つであり、評価規準は下図のとおりである。この評価規準を基に、各題材ごとに、各評価の観点に照らし合わせた目標及び評価規準を設定し、評価方法、評価の場面、判定の尺度などを明確にして、評価を行う。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	家庭や地域社会について見直し、課題を見付け、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

〈生徒指導要録の解説と記入上の留意点(『中等教育資料』平成13年4月号)〉

Ⅲ 研究の構想

研究の背景

社会の要請を受けた新教育課程

完全学校週5日制の下で、各学校が[ゆとり]の中で「特色ある教育」を展開し、豊かな人間性や基礎・基本を身に付けさせ、個性を生かし、自ら学び、自ら考える力など「生きる力」を培うことが大切である。

新教育課程の家庭科の改善の基本方針(ウ)

基礎的・基本的な知識・技術を確実に身に付けさせるために、実践的・体験的な学習を一層重視するとともに、環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見だし解決を図る問題解決的な学習の充実を図ることが大切である。

生徒の実態

生活技術・生活経験の不足。また、学習経験の差などにより一人一人の生徒の知識・技術の差が大きい。

目指す生徒像

- 生活を実感し生活に関心をもって、主体的に学習できる生徒
- 生活課題に気づき、問題意識をもち、進んで学習する生徒
- 生活に必要な基礎的な知識と技術を習得し、活用できる生徒
- 人とのかかわりを重視し、協力し合える生徒

研究主題

生活課題を主体的に解決できる生徒が育つ授業の創造

研究の仮説

生徒が自分とのかかわりでとらえられる題材を工夫し、問題解決的な学習を取り入れるなど、生徒が学習の中心となる指導法を工夫して授業を創造すれば、生活課題を主体的に解決できる生徒を育成することができる。

研究の視点

- ① 全体指導計画の作成
- ② 実践的・体験的な学習、問題解決的な学習を取り入れた指導の工夫
- ③ 評価計画と評価規準の明確化

Ⅳ 全体指導計画

設定科目は「家庭総合」とし、第1年次と第2年次に2単位ずつ4単位として全体指導計画を作成した。配当時間は、1学期26時間、2学期28時間、3学期16時間とする。

1 年 次		2 年 次	
	題 材 名		題 材 名
	○オリエンテーションとホームプロジェクトと学校家庭クラブ		○衣生活の科学と文化(14時間配当)
			服から見えてくるもの
			目指せファッションリーダー
			アパレル産業をのぞいてみよう
1	○人の一生と家族・家庭(18時間配当)	1	オリジナル作品を作ろう
学期	私の、僕の人生と家族	学期	作品を売り出すとしたら
	家族・家庭の中の私ー私の考える家族		○子どもの発達と保育(12時間配当)
	法律の中で生活する		子ども好き?
	自分の生活をデザインしよう	26	赤ちゃんを抱っこしたことある?
26	未来の家族関係について話し合ってみよう		児童虐待ってなぜ起こる
	○消費生活と資源・環境(20時間配当)		社会で育てよう
	自立した消費生活・・・未来のために		
	お金について知っておきたいこと		
	変化する買い物方法		
	○ホームプロジェクト(6時間配当)		
	PLAN→DO→SEE(夏休みの課題)		
			○ホームプロジェクト(4時間配当)
	発表しよう		発表しよう
	(消費生活と資源・環境)		○高齢者の生活と福祉(12時間配当)
	生活情報のよりよい活用を考えよう	2	まだ先のこともかもしれないけど
	グリーンコンシューマーになろう	2	高齢者になってみようー簡単な
2	○食生活の科学と文化(24時間配当)	学期	高齢者疑似体験ー
学期	食生活と健康のかかわりを知ろう	28	高齢社会って何?
	食べるってどういうこと?		年金もらえなくなっちゃうの?
	何をどれだけ食べればいいのか?		介護保険が始まった
28	コンビニで昼食を買おう		社会福祉施設に行ってみよう
	食品に添加物は必要?		介護を受ける身になって見えてくること
	あたると怖い食中毒		○住生活の科学と文化(16時間配当)
			安らぎの住まい
			私たちの暮らす住まいとは
			お部屋をリフォーム
			「だから借ります」「それでも買います」
			暮らしやすい住まいの提案
			みんなのまちづくり
	調理実習1「調理の基本」		
	栄養素って何?	3	さあ困ったどうしよう
	糖分のとりすぎにご用心	学期	
	生活習慣病は大丈夫?	16	
	自分の体を調べよう!		
	自分の食生活を見直そう		
	献立を立ててみようー食分ー		
	調理実習2「献立作成」		
	献立を立ててみようー日分ー		
	パソコンでらくらく栄養計算		
	食の自立はできたかな?		

VI 指導事例

指導事例 1	私の、僕の人生と家族 —私の考える家族—
--------	----------------------

1 題材設定の理由

家庭は、毎日を過ごす生活の場であると同時に、そこで子どもが成長、発達していき、やがて創り上げていく創造的な場である。しかし、その家庭やその場で生活を営む家族の姿は、大きく変化し固定的なイメージでとらえることはできなくなっている。また、新学習指導要領では、人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかわりについて理解させていくこととある。それ故、生徒が現在の自分はどの発達段階にあるかを知り、将来どのような家族・家庭を創造したいのかを考えることが重要である。そこで、「家庭総合」の導入の段階で、生徒が自分の家族・家庭を見つめ、今まで以上に、自分の生活に関心を持ち、これからの家庭科の学習に意欲的に取り組むことができることを目的として、この題材を設定した。

2 目 標

- (1) 家族・家庭について関心を持ち、よりよいライフスタイルを描くことができる。
- (2) 様々なデータから課題などを発見し、その解決を目指して思考を深め、自分の意見をまとめることができる。
- (3) 必要な資料等収集し、調べたことをまとめ、発表する方法を工夫することができる。
- (4) 現代の家族の特徴、家族に関する基本的な法律等を理解し、新しい制度などについての知識を身に付ける。

3 指導計画（18時間）

小題材名	時間	学 習 内 容	留 意 点
私の考える家族	2 (本時)	・現代の家族・家庭について知る。(クイズ) ・自分にとって家族とは何か考える。 (ブレインストーミング)	・関連する内容をクイズ形式にまとめておく。 ・様々な暮らし方の例を用意する。
法律の中で生活する	4	・社会制度としての家族について知り、家族に関する法律について基本的な理解をする。 (法律の基礎Q&A) ・データから見て結婚を考える。 (サイレント・オークション)	・正答を示しながら板書し時代とともに変化していくことに気付かせる。 ・各条件を黒板に貼っておく。
自分の人生をデザインしよう	6	・男女で創る家庭生活、職業生活を考える(職業労働・家事労働)(ロールプレイング) ・独立して暮らすために必要なことについて考え	・シナリオの一部を用意しておく。 ・新聞の読者登壇の記事を

		る。 (投書への返事)	集めておく。
未来の家族関係について話し合ってみよう	6	・男女共同参画社会基本法について理解し、これからの家族の在り方及び生活上のリスクを想定し、それらに対してどのような社会保障制度や社会福祉があるか調査・研究し、発表する。(グループ研究)	・グループを作り、協力して調べ、発表させる。

4 指導展開例 「私の考える家族」 (2時間)

(1) 本時のねらい

- ① 現代の家族・家庭についての基本的なデータを読みとることができる。(知識・理解)
- ② 自分にとって、家族はどのような存在か考え、まとめることができる。(技能・表現)

(2) 本時の学習の流れ (関心・意欲・態度・【関】 思考・判断・【思】 技能・表現・【技】 知識・理解・【知】)

学 習 活 動	教師の支援と留意点	評 価		資 料
		評価項目	評価方法	
家族・家庭に関する問題常識クイズを解いてみよう！				
<ul style="list-style-type: none"> ・家族に関するクイズを解く。 ・クイズにより現代の家族についての特徴を理解する。 ・家族は過去から未来へつながっていることに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択形式のクイズを用意し、全員が取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的にクイズに答えているか。 【関】 ・現代の家族について理解できたか 【知】 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 (授業への取り組み方) ・記録用紙の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズ ・プリント
<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な家族の形態について考える。 ・自分が考える家族の範囲を表にしてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな家族の例を示す。 ・現代家族の問題点などを把握させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめることができたか。【思】 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント
ブレインストーミングでいろいろな生き方・暮らし方について考えを深めよう！				
<ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングによる話し合いをする。 ・グループで出た意見を整理する。 ・分かったことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングの注意点を確認する。 ・グループを編成させる。 ・ブレインストーミングによる話し合いをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブレインストーミングに積極的に参加しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 (グループ活動への参加状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ・プリント

	意見をまとめ、発表させる。 ・意見を補足修正させる。	【関】 ・工夫して発表できたか。 【技】	・観察及び記録用紙の確認
--	-------------------------------	----------------------------	--------------

(3) 評価の観点

- ① 現代の家族・家庭の特徴を理解することができたか。
- ② 自分の思い描く家族を工夫してまとめ、グループ内で発表することができたか。
- ③ グループの他のメンバーの発表及び、他のグループの発表を聞き、自分の意見を補足修正することができたか。

5 生徒の感想

『家族について考える授業』

- ・こんなに深く家族のことを考えたのは初めてだった。最も身近な問題なのにとっても難しいものがあった。人によってこんなにもFI (Family Identity) が違うことに驚いた。
- ・この授業で、個人個人が考える家族は、それぞれ違っていることに気付いた。もし、家族の中で、自分は家族だと思っていなくても、相手が家族だと思っていなかったら、悲しい。
- ・私は家族が少ないけれど、広く見ていけば結構多いと言えるかもしれないと思った。叔父、叔母のことをきちんと知らないから（お年玉をもらうくらいで）誰と血縁関係にあるか、今度調べてみようと思った。

(生徒のワークシート記入例)

- ・いろんな家族の「幅」があることを知り、少し驚いた。従兄弟や叔父・叔母なども家族と考えている人は、よっぽど身近にいるのではないかと思った。
それぞれの家庭で、親戚などの付き合い方も違うから、このような考えの違いが出てくるのだと思う。私が一番大切なのは、一緒に住むということのみでなく、家族一人一人の気持ちを分かってあげて、和ませる雰囲気をつくれることだと思う。「家族」について改めて考えて、とてもいい勉強になった。
- 『ブレーストリーミング』
- ・普段一緒に生活している家族のことを考えるということは、めった

4. あなたにとっての家族はどれとどれ？あなたにとって家族はどのような存在だろうか。

(1) 家族図を書いてみよう。(どうしても思い浮かばない場合は質問紙 No.1・2・3を参考にしよう)

(2) あなたが描いた家族の特徴をあげてみよう。
(例) 血縁関係、同居・別居、結婚・離婚・再婚、養育者との付き合い、同居者との付き合い、暮らし方、等。

自分がいて、配偶者がいない。
自分達には子供が2人いて、4人で暮らしている。
自分にも配偶者にも両親がいるが別居してたまに行き来している。

(3) グループをつくり、ブレーストリーミングで各自の思い描く家族について発表しよう。(相手の人から質問したり発言に反応する。空欄の人はメモをとる。)

(4) 一連りの発表が終わったら、自分の考えを補足修正しよう。

自分の両親と夫の両親や自分の夫の妹とは別居しているが、養育関係があるから家族である。

(5) グループで出てきた、家族の共通点、相違点をまとめよう。

共通点	相違点
結婚していない家族	血縁者ばかり。

(6) 各グループの発表者が全体で発表する。

(7) 他のグループの発表を聞き、あなたの思い描く家族はどのように変えましたか。

自分が考えていた家族は、ただ単に、自分に直接関係ある人と夫に直接関係がある人達だけが家族だと思っていたけれど、みんなの発表を聞いて、たとえば、たに合わない親戚とあんなく、一度かかわりをもった人であれば、その人はみんな自分の家族なんだと思った。

(8) 授業の振り返り

家族というところに對して、たにも考えたことがなかった。ただ普通に家にいかに住んでいる人だけを家族として考えていただけだった。けれど、いろいろな人の考えを聞いて自分の考えも変わった。こうして、他の人の意見を聞くことは自分にとってとても大切なことだと思った。

にしない気がするので、今日から始まった授業で、家族のことをいろいろ理解していければいいと思う。みんな、それぞれ意見が違うので、みんなの意見も参考にしたいと思う。

- ・ みんないろんなことを考えているなって思った。今日、一番強く思ったことは、一人一人がちゃんとした自分の意見をもっていて、中にはちょっと変わった意見もあったけど、そのことをちゃんと言えて、やっぱり高校生ともなると違うということだった。こーやってみんな自立していくんだと思った。

6 考 察

本事例は、自分の家族・家庭をみつめ、これまで以上に、自分の生活に関心を持ち、「家庭総合」の導入として、これからの家庭科の学習に意欲的に取り組むことができることを目的として実践したものである。現代の家族・家庭の特徴を理解するためにクイズを取り入れ、生徒の興味を喚起させるとともに、自分の思い描く家族をもとに、自分の意見をまとめ発表し、さらに人の意見を聞くブレーストーミングを実施した。

こうした、最も身近な家族に関心を持ち、自分の考える家族をまとめ発表し、人の意見を聞きながら自分の意見を補足修正する力が、生活課題解決において重要である。授業中の生徒の取り組み状況や授業後の生徒の意識調査から、以下のように整理できる。

ブレーストーミングを取り入れた授業に対する生徒の取り組みは意欲的である。

ブレーストーミングを取り入れた授業は、今回が初めてであった。そのため、作成したプリントを活用しながら各グループで進めていった。

右表のように、ほぼ8割の生徒が「大変よく取り組んだ」と自己評価している。その理由として、「人によって考え方が様々で意見を真剣に聞いていた」「人の意見を聞くのがおもしろかった」「みんなで発表し合うのが楽しかった」という回答が多かった。

大変よく取り組んだ	78%
まあ取り組んだ	22%
全然取り組んでいない	0%

(1年生 3クラス分 121名)

家族に関する授業（特に自分の思い描く家族）に対する生徒の興味は高い。

現代の家族の特徴を理解するために、クイズ形式を取り入れた。基礎的なデータを理解するために、生徒が興味をもって取り組めるよう、出題方法も工夫した。また、自分が考える家族を用いて、意見をまとめ、発表することにより、家族に関する意識が高まった。さらに、他人の意見を聞くことにより、家族に関する考えが広まったといえる。

大変興味をもてた	65%
まあ興味をもてた	23%
全然興味をもてない	12%

(1年生 3クラス分 121名)

指導事例 2	食生活と健康のかかわりを知ろう —生活習慣病は大丈夫？ 自分の体を調べよう！—
--------	---

1 題材設定の理由

年々、生活習慣病の若年化がすすんでおり、その要因の一つとして食生活の問題がある。本校では「だるい」「眠い」「朝食をとっていない」「ジュースを毎日飲んでいる」などの生徒の言葉をよく耳にするが、これらも基本的な生活習慣や食生活の乱れが主な原因と考えられ、食生活の自己管理ができていないことが伺える。

そこで、授業に集中できない生徒が多い中、生徒間のコミュニケーションを図りながら、調査・実験・実習などの実践的・体験的な活動を通して、食生活と健康のかかわりについて生活習慣病の視点から学ばせ理解させたい。そして、その上で自分の食生活を振り返らせ、生徒一人一人の食生活の問題点を明確にさせ、健康な食生活になるように問題を解決するための方法や知識・技術を身に付けさせたいと考え、本題材を設定した。

2 目 標

- (1) 毎日の食生活について関心をもち、自立した食生活を営もうとする。
- (2) 自分の食生活を見直し、自分なりに食生活を工夫して改善することができる。
- (3) 調理に関する基礎的・基本的な技術を身に付ける。
- (4) 栄養、食品、調理について科学的に理解し、食生活の充実に生かす。

3 指導計画（24時間）

小 題 材 名		時間	学 習 内 容	資 料 等
食べるってどういうこと？ 何をどれだけ食べればいいのか？		2	・食文化や食べることについて知り、朝食の必要性や各自の栄養所要量、栄養価について考える。	
食 べ る こ と と 健 康	コンビニで昼食を買おう	2	・コンビニエンスストアで用意できる食事の問題点に気付く。	
	食品に添加物は必要？	2	・問題点として挙げられる栄養のバランス、食品添加物、食中毒などについて考える。	VTR 「添加物表示の見方・選び方」
	あたると怖い食中毒	2	・ビデオを見て、食中毒の注意や説明を聞き理解する。調理実習に生かすことを知る。	添加物調査 VTR 「こうしておこった食中毒2」
調理実習 1 調理の基本		2	・チキンピラフ、スープ、サラダを作る。	

食 べ る こ と と 健 康	栄養素って何？	1	・栄養素の種類やその働きについて理解する。また、栄養素と生活習慣病とのかかわりを知る。	
	糖分の取りすぎにご用心	2	・糖分測定の実験を行い、清涼飲料水等に含まれる糖分量を知る。	糖度測定実験
	生活習慣病は大丈夫？	1	・ビデオを見る。生活習慣をチェックする。	チェックシート VTR
	自分の体を調べよう！	1 (本時)	・BMIの計算や体脂肪率を測定し、自分の身体について調べる。	「危ない太めはどのタイプ？」 体脂肪率測定
食生活チェック 『自分の食生活を見直そう』		2	・事前に行ったアンケートの結果や自分の食生活を振り返って点検し、実行できる食生活目標を決める。	アンケート集計 チェックシート
献立作成 『献立を立ててみよう ――食分―』		1	・各自で一汁三菜の食事の副菜を選び、一食分の献立を立てる。	
調理実習2 献立作成の中から		2	・『献立を立ててみよう――食分―』で多く選ばれた献立で調理実習をする。	各クラスごと
献立作成 『献立を立ててみよう ――日分―』		1	・各自で既習事項からテーマを決めて、一日分の献立を立てる。	
『パソコンでらくらく 栄養計算』		2	・パソコンを用いて、各自が立てた一日分の献立の栄養計算をし、リーダーチャートから栄養のバランスを知る。	パソコン実習 「NEW HEALTHY」
まとめ 『食の自立はできたかな？』		1	・再度食生活をチェックし、食生活目標が実行できたか、問題点を改善できたか、食の自立はできたかを考える。	チェックシート

4 指導展開例 「生活習慣病は大丈夫？ 自分の体を調べよう！」（2時間）

(1) 本時のねらい

- ① 生活習慣病や肥満について正しく理解し、食生活と健康のかかわりについて知る。
- ② BMIなどの計算や体脂肪率を測定し、自分の体の肥満度について調べ、生活習慣や食生活の問題点を見いだすことができる。

(2) 本時の学習の流れ (2時間)

区分	学習活動	教師の支援と留意点	評価		資料
			評価項目	評価方法	
導入 10分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を確認する チェックシートで生活習慣についてチェックする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣のチェックをさせ、○が13個以上の生徒を挙手させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に記入できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 	チェックシート
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ビデオ「危ない太めはどのタイプ？」を視聴し、生活習慣病と肥満について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病の知識を確認する。 ビデオを視聴しプリントに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントに記入できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントの確認 	ワークシート
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習内容を確認する。 肥満度の計算や測定方法について説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 電卓を持っているかを確認する。 			
展開 30分	<ul style="list-style-type: none"> 自分の肥満度を計算する。 体脂肪計で体脂肪率を計る。(交代で行うので、待っている生徒はプリントの考察を記入する) 	<ul style="list-style-type: none"> 計算方法を確認する。 体脂肪計の使い方を知らせる。(プライベートなことなので測定は教師が付き添う) 	<ul style="list-style-type: none"> 肥満度を計算したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察 プリントの確認 	ワークシート
まとめ 15分	<ul style="list-style-type: none"> 考察の答え合わせをする。 調査の結果や判定から自分の生活習慣等を振り返り、問題点を考え、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活習慣の問題点を食生活とのかかわりで考えるよう助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の問題点をまとめることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントの確認 	ワークシート



(3) 評価の観点 ① 生活習慣病や肥満について正しく理解できたか。

② 調査結果から自分の生活習慣の問題点を見いだせたか。

5 生徒のまとめから

- ・過体重なので正常になりたいと思った。体脂肪が計れてよかった。減らしていきたい。
- ・この授業をやって自分の体の状態やこれからのことを考えさせられた。
- ・大切なのは健康な生活をするることである。ジュース類はなるべく避けてお茶を飲む。おやじになっても肥満にならないで若くいたいと思った。
- ・肥満の体じゃなくてよかった。肥満にならないように3食きちんととり、適度な運動をす

るよう心がける。

- ・ちょっと体重が多すぎるかもしれない。この授業をもとに、食生活を改善したいと思う。
- ・肥満はいろいろ怖い病気を引き起こすので恐ろしいと思った。自分の体脂肪率が分かったのでよかった。

(生徒のワークシート例)

自分の体を調べよう!

★ あなたは自分の体のことをどのくらい知っていますか?生活習慣病の原因となる肥満について調べてみましょう。

○ 肥満の判定をしよう。(下線やカッコに自分の数値を入れよう)

【調査1】 標準体重による方法 (ブローカーの法)

式1 (身長 173 cm - 100) × 0.9 = (A 65.7) kg

式2 (体重 80) kg - (A 65.7) kg × 100 = (21) %

判定 (○で囲もう)

-20%以下 やせ	-10~20% 体重減少	±10% 正常	+10~20% 過体重	20%以上 肥満
--------------	-----------------	------------	----------------	---------------------

【調査2】 体指数による方法 (BMI)

(体重 80) kg ÷ (身長 173) m × (身長 173) m = (26.7) (BMI値)

判定 (○で囲もう)

20未満 やせ	20以上~24未満 正常	24~28.4未満 過体重	28.4以上 肥満
------------	-----------------	------------------	----------------------

資料1 肥満の年代別推移

資料2 肥満率とBMIの関係

身長 (cm)	体重 (kg)
150	48.5
160	62.5
170	78.5
180	97.4
190	119.3
200	144.2

【調査3】 適正エネルギーの簡易算出法 食Na 10

式1 (身長 1.73) m × (身長 1.73) m × 22 = (A 66) kg

式2 (A 66) kg × (36) = (2376) kcal

生活活動強度別 体量当たりエネルギー所要量

年齢	I (軽い)		II (中程度)		III (過労)		IV (重い)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
19-29	31	26	35	31	37	33	45	45
30-39	29	25	33	29	35	31	42	41
40-49	28	24	32	28	34	30	41	40
50-59	27	23	31	27	33	29	40	39
60以上	26	22	30	26	32	28	39	38

生活活動強度の目安

- I (軽い) 散歩、買い物など比較的ゆっくりとした1時間程度の歩行の運動。大部分は座位で読書、勉強、観望など。
- II (中程度) 通勤、仕事などで2時間程度の歩行や作業。授業、家事などで立位が比較的長い。部分の座位で読書。
- III (過労) 一日の人が1日1時間程度は散歩やサイクリングなどの運動をしたり。大部分が立位で1時間程度は読書など比較的長い作業に就く。
- IV (重い) 一日1時間程度は並しいトレーニングや木材の運搬などの重い作業に従事。

【調査4】 リング型肥満? 洋ナシ型肥満? (判定で肥満がでた人)

ウエスト (85.5) cm = (0.83)

ヒップ (103) cm = (0.83)

判定 (○で囲もう)

0.8以上 リング型肥満	0.8未満 洋ナシ型肥満
-------------------------	-----------------

【調査5】 体脂肪率を測定する方法

測定結果 (29) %

判定 (○で囲もう)

性別	男性		女性	
	30歳未満	30歳以上	30歳未満	30歳以上
男性	14~20%	17~23%	17~23%	25%以上
女性	17~24%	20~27%	20~27%	30%以上

6 考察

「自分の体を調べよう!」という題材名を提示すると、生徒は自分自身のことなので、興味・関心をもち、授業に積極的に取り組んだ。さらに、生活習慣や食生活について、ビデオを視聴したり、計算機を使って肥満度を計算したり、体脂肪率を測定したりと体験的・実践的な活動を多く取り入れたので日頃授業に集中できない生徒も積極的に活動し、生徒一人一人が自分の生活を振り返り、問題点を把握出来たと思われる。特に、実際に測定した体脂肪率の調査については、調べてみてよかったとの意見が多く、健康な生活習慣への意識を高めることができた。

題材の指導では、先に知識を身に付けさせ、食生活と健康のかかわりを知った上で自分自身の食生活や生活習慣をチェックし、ここで自分の課題が把握できたわけである。さらに、一日分の献立を各自が既習した事項からテーマを決めて作成し、栄養計算をパソコンを用いて行い、レーダーチャートから栄養バランスを確認し、献立を修正した。最後に、食生活の自立ができたかどうか再度チェックをし、各自の課題が改善されたかどうかをまとめた。この学習の流れの中に調理実習を2回組み込み、調理の知識や技術を身に付けることで、食生活の自立が図れるようにした。今回の授業全体を通して、生徒は自分の食生活に興味・関心をもち、自ら生活課題を把握し、改善するための知識や技術が身に付き、改善への意欲をもつことができたと考えられる。

1 題材設定の理由

高齢者の生活や福祉の分野は、テレビや新聞などで報道されることが多く少子高齢化のため、さけて通ることのできない問題である。しかし、街を歩くと高齢者が多いことに生徒は気付くものの、祖父、祖母と同居している者が少なく、身近な問題としてとらえにくい現状がある。そこで、生徒たちが、興味をもって取り組みやすい「簡単な高齢者疑似体験」を実施し、体験を通して高齢者問題を考えやすくした。さらに、そこから生徒たちが、主体的に活動できるようにグループに分け、社会福祉施設の見学や介護保険制度などを含めた4テーマから、選んで課題を決めて解決し、研究発表する。また、高齢者問題の現状を理解した上でのまとめとして「簡単な介助実習」を取り入れることとした。

これらの学習を通して、高齢社会や介護・福祉についての理解を深め、他者を尊重する態度や他人を思いやる気持ちをはぐくむため、この題材を設定した。

2 目 標

- (1) 高齢者に関心を持ち、身近な高齢者との交流の機会をもつ。
- (2) 高齢者の加齢に伴う身体の変化と特徴について理解する。
- (3) 高齢社会の現状に気付き課題を見つけ、その解決を目指す方法を自分なりに考え工夫し、発表する。
- (4) 高齢者の介護の心構えについて知る。

3 指導計画（12時間）

小 題 材 名	単 元	学 習 内 容	留 意 点
・ 高齢者になってみよう	2 構	・ 高齢者の加齢に伴う身体の変化を体験する。 ・ ワークシートを使って、発表する。	・ 簡単な高齢者疑似体験 ・ 目、耳、手が不自由になったことを想定して体験する。
・ 高齢社会って何？ ・ 年金もらえなくなっちゃうの？ ・ 介護保険が始まった ・ 社会福祉施設に行ってみよう	8	・ 高齢社会の現状、年金、介護保険、社会福祉施設の4テーマから生徒が課題を設定し、グループで調べて発表する。 ・ 高齢者の問題と言うよりは、生徒自身の問題であることを認識する。	・ テーマは、教師が4つ設定し、各グループごとに、協力して調べ、発表させる。 ・ 自分たちはどうすればよいかという、自分の問題として考えさせ、まとめる。 ・ 老人力についても触れる。 ・ 身近な高齢者との交流の機会がもてるようにする。
・ 介護を受ける身になって見えてくること	2	・ 簡単な介助実習を通して、高齢者の立場を理解し、介護の心構えを知る。	・ 簡単な介助実習 ・ 思いやりのある心を養う。

4 指導展開例 「高齢者になってみようー簡単な高齢者疑似体験ー」（2時間）

(1) 本時のねらい 高齢者の加齢に伴う身体の変化を体験する。

(2) 本時の学習の流れ

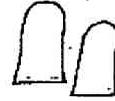
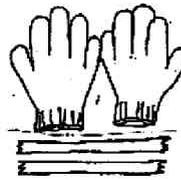
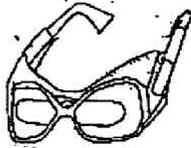
学 習 活 動	教師の支援（留意点）	評 価		資 料
		評価項目	評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 身近な高齢者（祖父祖母を中心）について様子やイメージを書く。 身近な高齢者について発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習する前に、高齢者を観察するように指示する。 イメージがわきやすいように高齢者について具体的に話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の様子やイメージを書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントの記入状況 	プリント
<ul style="list-style-type: none"> 2人1組を作り、高齢者と介助者を決める。 簡単な高齢者疑似体験の仕方の説明を聞く。 高齢者疑似体験を装着前にワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全員が参加できるようにする。 2人1組になれない生徒ができないよう、声をかける。 必要な用具を揃え、配布する。 			プリント ワークシート
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者疑似体験を行う。 高齢者と介助者を交替する。 	<ul style="list-style-type: none"> 消極的な組に対しては、やってみせる。 パートナーと協力して積極的に体験するよう伝える。 		<ul style="list-style-type: none"> 高齢者疑似体験ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者疑似体験を観察している。
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者疑似体験前と体験時を比較し、感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 感想を書かせる工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 感想を書くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 目、手、耳の3点について書いたワークシートの記入状況 	ワークシート
<ul style="list-style-type: none"> 高齢者疑似体験で、分かったこと、感じたことなどを発表する。 			<ul style="list-style-type: none"> 発表する態度発表を聞く態度を観察 	プリント ワークシート

(3) 評価の観点 ① 体験学習に積極的に参加している。

② 体験を通して高齢者の加齢に伴う心身の変化を理解しようとする。

5 簡単な高齢者疑似体験の内容

- ・指先の感覚が低下する状態を軍手をはめ、指をセロハンテープで固定し、針に糸を通したり、財布から小銭を取り出したりすることによって体験する。
 - ・目の生理的変化である、白内障を特殊なゴーグルにより体験をする。
 - ・耳が遠い状態を耳栓を使って体験する。
- 必要なもの用具（軍手、セロテープ、白内障のゴーグル、折り紙、新聞・針と糸、針山糸切はさみ・タイマー・耳栓・小銭数枚・財布・テレホンカードなど）
- ・ 実習装着時 白内障ゴーグル 軍手・セロテープ 耳栓



針・糸

財布・小銭

折り紙

6 高齢者疑似体験前の高齢者のイメージと体験後の感想

- ・歯が衰えていくのでかたいものが食べられない。
- ・目が悪いので、近くまで行かないと自分だと分かってもらえない。
- ・耳が遠い、テレビを見るとき音がうるさい。
- ・足が悪い、階段がつかう。
- ・話が長い、同じことを何度も言う。
- ・うちのおばあちゃんは、木に登れるほど元気いっぱい。



- ・目が見えないことがどのくらいつらいことかよく分かった。高齢者の気持ちが少しは分かったような気がする。耳もよく聞こえないので、相手が早口で話すと絶対に聞き取れないと思った。また、手が不自由だといろんなことができず思ったより動かなくていららする。なぜ高齢者の行動が遅いのかよく分かった。これからは、高齢者にもっと暖かいまなざしをもって接しようと思う。
- ・今まで高齢者の気持ちなんてきちんと分かっていなかった。体験してみて初めておじいちゃん、おばあちゃんの気持ちが分かった。このごろ面倒だから遊びに行っていないけど、すぐに、おじいちゃんおばあちゃんに会いに行きたくなった。

7 考 察

学習前に高齢者を観察するように伝えたので生徒は、街中にいる高齢者にも視点を広げ、高齢者への興味・関心もった。そのうえで、高齢者疑似体験を行ったので高齢者のイメージと現実の違いに気付き、高齢者の加齢に伴う心身の変化を理解できた。また、生徒のまとめに「これから自分は・・・したい」、「おじいちゃんおばあちゃんに会いに行きたくなった」など意見が書かれたことは、生徒の優しさなど心に触れることができたと考える。

1 題材設定の理由

人は身を守るため自分の居場所を持ちたいと思うものである。しかし、現代の高校生は、「住まい」についてあまり関心をもっていない。それは、生活様式の変化により、子どもの頃から心地よい居場所を夢みて創造する体験が不足しているからである。

高校生は近い将来、自立した生活を送ることになる。まずは、現在の自分の生活環境に気付かせ、より暮らしやすい住まいについて考えさせたい。その手段として、住宅に関する諸情報を有効に活用し、住まいに関する知識、技術を会得し、また、積極的に地域活動にも参加し、住みよい町づくりにも協力できるよう住生活に対する意識を高めたい。そこで、ライフスタイルに合わせた住まい方を主体的に考察し、実践する能力を身に付けることが必要であると考え、この題材を設定した。

2 目 標

- (1) 住居や環境についての関心を高め、自分なりの理想をもつ。
- (2) 家族の生活を中心に、住居や住まい方についての見方や考え方を知る。
- (3) 私たちの住生活の問題点を認識し、よりよい生活環境をつくる。

3 指導計画 (16時間)

小 題 材 名	時間	学 習 内 容	資 料 等
私たちの暮らす 住まいとは	2	<ul style="list-style-type: none"> ・気候風土や地域文化の違いによる住まいの役割を考える。 ・生活に合わせた間取りや起居様式の変化を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいに関するアンケート ・学校行事に関連した資料を用意 ・和室での授業
お部屋をリフォーム	2	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの安全性について考え、管理方法を理解する。 ・機能的、美的な面から室内の環境の整備を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事 ・折り紙、包装紙、 ・色鉛筆等
「だから借ります」 「それでも買います」	2	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅事情について考え、日本の居住水準をもとに住居費を算出する。 ・自分が一人暮らしをする場合の住まいの条件を考え、情報を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考 VTR ・「マイホーム マイルーム」 ・住宅情報誌
暮らしやすい 住まいの提案	8 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージごとの住要求を満たした住まいを設計する。 ・グループごとに課題研究し、発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅広告等
みんなのまちづくり	2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の公共施設に目を向け住環境の整備を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の地図

4 指導展開例 「暮らしやすい住まいの提案」 (8時間)

(1) 学習の流れ

各クラスごとに家族を設定し、その家族のライフステージに合わせた住要求を挙げる。(2時間)

- ・ライフステージを5つに分け、それぞれのステージにはどのような住要求があるか検討する。
- ・4～5人の班になるようにグループを作り、担当ステージを決める。

活動期前期、活動期後期、安定期、自由期、介護期



グループごとにテーマに沿って研究をする。(4時間)

- ・家族の変化を考え、各ライフステージごとに必要な機能を考慮して、具体的にどのような住まいが適しているか検討する。
- ・発表者(まとめ役)、設計担当、インテリア担当、エクステリア担当に別れて調査、研究を進める。



各グループの研究結果を発表し、ひとつの家族の住生活の変化をまとめる。(2時間)

- ・グループごとに考えた住まいを発表する。聞き手はまとめのプリントにポイントを書き込み、ライフサイクルの中での住まいの変化を知る。

(2) 本時のねらい (5・6/8時間目)

- ① 家族構成や生活条件などに適した住居の平面設計ができる。
- ② 室内外の環境整備を計画することができる。
- ③ グループごとの課題の研究発表準備をする。

(3) 本時の学習の流れ

学 習 活 動	教師の支援と留意点	評 価		資 料
		評価項目	評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・設計の要点を理解し、各ステージの住要求を満たした住まいの間取り図を描く。 ・インテリア、エクステリアの計画をし、各空間をデザインする。 ・各グループごとにひとつの住まいとなるようまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅情報の中から選択してもよいことを伝える。 ・室内外の整備は機能面と美的な面の両方から考えるよう助言する。 ・統一した疑問が出た場合は各担当ごとに集めて助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を持ち寄り、積極的に取り組んでいるか。 ・各グループごとに意見交換をしてまとめているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察 ・発表用紙の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考プリント ・住宅情報誌 ・住宅広告 ・カタログ

(4) 評価計画

課題の研究は、グループごとの活動となり役割分担も異なるので、一人一人が課題に応じた活動をするようになる。そこで、「研究過程」の評価規準とその判断の基準を明確にした。A B Cの3段階で評価する。

評価規準	A	B	C
適切な住空間を計画、設計することができる。 (知識・理解)	この小題材に入る前に学習してきた内容を活用し、さらに新しい内容を活用している。	この小題材に入る前に学習してきた内容を活用している。	この小題材に入る前に学習してきた内容を活用できない。
この部分の評価は担当によって違う。 <ul style="list-style-type: none"> ・設計担当は、室内環境を考えた間取り、部屋の数、記号の使い方。 ・インテリア担当は、部屋の割り振り、生活様式、室内装飾。 ・エクステリア担当は、外観、環境整備。 ・発表者はそれぞれの説明を発表用原稿としてまとめているかを評価する。 			
意欲的に情報を収集している。 (関心・意欲・態度)	住まいに関する広告紙やインテリア、エクステリアの資料をいろいろな視点から多く持参した。	住まいに関する広告紙やインテリア、エクステリアの資料を持参した。	住まいに関する広告紙やインテリア、エクステリアの資料を持参しない。
情報を整理し、活用することができる。 (思考・判断)	資料の中から自分の担当以外のものも含め課題に適した物を使用している。	資料の中から自分の担当の課題に適した物を使用している。	資料の中から自分の担当の課題に適した物を使用できない。
話し合いに積極的に参加している。 (関心・意欲・態度)	自分の意見を言い、話し合いの推進役となっている。	自分の意見を言いグループでの意見交換に参加している。	自分の意見は言わないが、グループでの話し合いには参加している。
発表用の資料づくりができる。 (技能・表現)	多くの資料を適切に使い、分かりやすく表現されている。	資料を使って、分かりやすく表現されている。	資料が不足していて、分かりやすく表現されていない。

5 考 察

- ・題材のはじめに生徒対象に住まいに関するアンケートを行い、住居に対する意識付けをした。このことにより、間取りや室内環境の整備について生徒は具体的に考えるとともに、研究の過程において自分の家及び部屋についても考えが発展した。
- ・クラス全体でひとつの家族を設定することにより、既習の家族の生活設計をライフサイク

指導事例 5	さあ困った、どうしよう
--------	-------------

1 題材設定の理由

自分の将来の生活を想定し、起きるであろう問題を解決する能力を育成するため問題解決的な学習「さあ困った、どうしよう」を設定した。これからの生活の中で出会う問題に対処できる態度と能力を育てたい。家庭科においては、すでに多くの問題解決的な学習の実践があるので、今研究では、発表方法の工夫に取り組んだ。従来行ってきた印刷資料、人形劇、紙芝居、コント等に追加して、プレゼンテーションソフトを使った発表を考えた。発表が成功し、クラスメートからよい評価を受けると満足感が生まれ、生徒の自己肯定感が増す。そのための生徒への援助を工夫した。

問題はブレインストーミングによる検討を行った上で、生徒が自由に設定する。この題材が2学年にわたってきた学習の最後となる。生徒は、全ての分野から問題を設定できるので、興味をもって取り組み、内容はバラエティに富む。このことにより、発表を飽きずに聞け、相互評価できると考えた。また、調査・研究には、今年度より、インターネット環境が整備されたので活用させていきたい。

2 目 標

- (1) 自分の将来の生活を想像し問題点を見つけ、その解決に向けて取り組もうとする。
- (2) 必要な情報を収集し、問題の解決方法を目指して考えをまとめることができる。
- (3) 発表方法を工夫し、分かりやすく意見を表明することができる。
- (4) 他人の発表をしっかりと聞き、理解し、互いに評価し合う。

3 指導計画（12時間）

学習内容	時間	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・学習への取り組みを理解する。 ・「将来起きるかもしれない」問題についてブレインストーミングをする。 ・班で、問題設定をする。 ・パワーポイントの体験 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・説明用プリントを用意しておく。 ・パワーポイントを使って説明する。 ・問題事例をたくさんあげるよう助言する。 ・テーマが重ならないように配慮する。 ・パソコン室の準備と使用方法のプリントを用意する。
<ul style="list-style-type: none"> ・調査、研究、印刷用原稿の作成をする。 ・発表順番を決めるなど、発表の準備をする。 ・レポートを作成する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・資料などを用意し援助をする。 ・インターネットやパソコンを活用するよう促す。 ・発表時までには、印刷資料集を作成しておく。 ・発表は紙芝居、人形劇、コント等工夫したり、教材提示装置やパワーポイントを利用したり考えるよう

		助言する。
・発表会、評価をする。	5 本時	・各班15分程度 ・しっかり聞き、評価することを伝える。相互評価用紙を回収する。
・評価の集計と反省をする。 ・自己評価をする。 ・レポートの提出	1	・回収した相互評価用紙を確認し、切り分けておく。 ・クラスメートの評価の集計と自己評価をさせる。 ・集計用紙、自己評価用紙を提出させる。

※レポートの評価は後日行い、教師の評価用紙を渡す。レポートは生徒の承諾を得た上で、次年度の資料とする。

－問題設定に当たって、生徒に提示する条件－

- ・自分の将来に起きるかもしれない生活上の問題を設定し、解決方法を探る。単なる調べ学習ではなく、自分の生活をどうするかという視点で考えること。
- ・テーマは家庭生活に関することなら自由。
- ・2人1組を基本とするが、1名から4名まで可。
- ・レポート、印刷用原稿を提出する。印刷用原稿はクラスメートの役に立つように情報が豊富に載っているようにすること。
- ・関連する法律や社会のルールなどについては、必ず調べること。
- ・発表方法の工夫をする。コンピュータソフトのパワーポイント利用、コント、人形劇など。いかに聞いてもらえるか考え、実行すること。
- ・相互評価をする。他の人の発表もよく聞くこと。

4 指導展開例 (3・4 / 5時間目)

(1) 本時のねらい

- ① 発表を成功させることができる。
- ② 他の班の発表を聞いて、評価することができる。

(2) 学習活動、教師の活動、評価方法、資料

学習活動	教師の支援	評価方法	資料
<ul style="list-style-type: none"> ・印刷資料集を用意する。 ・発表する、発表を聞く。 ・質問をする。 ・評価用紙に評価を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価用紙を配布する。 ・発表班に用意を促す。 ・質問が出ないときは質問を促す。 ・評価を記入する。 ・次の発表班の用意を促す。 ・次週の発表班を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察により行う。 ・評価用紙の確認により行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷資料集 ・評価用紙 ・各発表班の発表資料 ・教材提示装置 ・パソコン接続の用意

(3) 教師の留意点 発表後に教師が批評することは教師の評価のひとつであるが、生徒の評価に影響するので、少し控える。

VI 研究のまとめと今後の課題

「生活課題を主体的に解決できる生徒が育つ授業の創造」を主題に、「生徒が自分とのかかわりでとらえられる題材を工夫し、問題解決的な学習を取り入れるなど、生徒が学習の中心となる指導法を工夫して授業を創造すれば、生活課題を主体的に解決できる生徒を育成することができる」という仮説を設定し、授業実践を通して研究してきた。

1 生徒が自分とのかかわりでとらえられる題材の工夫

題材のネーミングを工夫し、「生活習慣病は大丈夫？ 自分の体を調べよう」「暮らしやすい住まいの提案」など題材名から生徒が学習内容を想像でき、興味・関心を喚起できるようにした。また、生徒の生活実態に即した題材構成となるよう、アンケートを実施するなど自分の生活を見つめることから学習が始められるようにしたので、生徒は生活を実感し生活に関心をもって、学習に取り組んだり、自分の生活課題に気づき、問題を設定するなど問題意識をもって学習に取り組んだりした。

さらに、題材に適した指導時間数を決め、適切な時期に配当して全体計画を作成した。

2 生徒が学習の中心となるような指導法の工夫

(1) 実践的・体験的な学習を取り入れた指導

事例1におけるブレンストーミングやロールプレイング、事例2における体脂肪測定、事例3における簡単な高齢者疑似体験、事例4における住まいの設計など体験学習や実験・実習、調査などを取り入れたので、生徒の学習への興味・関心が高まり、主体的な学習ができた。また、実践的・体験的な活動により、生徒の知識・理解がより確かなものになり、技術が身に付いた。このようにして習得した知識や技術を積極的に活用して、実際の生活に生かされるなど、生活をよりよく創造しようとする姿勢が身に付いた。

(2) 問題解決的な学習を取り入れた指導

問題解決的な学習を取り入れ、生活を営んでいく上での自分の課題に気付かせ、課題を設定できるようにした。問題解決的な学習では課題設定の段階が重要である。そこで、課題は全体指導計画の前半では教師が示し、次にいくつかの課題の中から生徒が課題を選択し、最後は自分の将来の生活を想定し起きるであろう問題を課題とするなど段階を追って設定した。このように段階を追って問題解決的な学習を継続していくことによって、生徒は生活課題に気づき、問題意識をもつようになり、課題の解決を目指し進んで学習していく。また、課題の共有化を図る発表会では、紙芝居、人形劇、パソコンソフトの利用などいろいろ工夫をした。このような問題解決的な学習過程の中で、グループ活動を実施したり、調査活動等で高齢者とかかわったりと人と人とのかかわりを重視したので協力し合う姿や高齢者を思いやる心がはぐくまれた。このように問題解決的な学習を何回も繰り返す中で、生徒は学び方を学ぶこともでき、将来にわたって変化し続ける社会に主体的に対応していけるようになると思う。

今回の研究では評価については継続して研究することができなかった。今後は評価について、実践できなかった他の題材をも含め、さらに研究を深める必要がある。

平成13年度教育研究員研究報告書

〔東京都教育委員会印刷物登録〕
平成13年度 第41号

平成14年1月23日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒1-1-14
電話番号 03-5434-1976

印刷会社名 株式会社 ドゥ・アーバン